

令和6年度 研究構想

1 学校教育目標

温かいつながりの中で、目標に向かって粘り強く頑張り抜く子どもの育成

2 研究主題

『自律的学力の育成を目指した授業改善』

自律的学力とは…見通しをもち試行錯誤しながら、解決に向けて自分で学びをコントロールし進める力

3 研究の目的

学習内容及び見方・考え方の系統性を生かした授業の在り方、それに付随する共通して指導するスキルを明らかにする。

4 めざす子ども像

知識や既習事項を生かし、試行錯誤しながら課題解決に向かうことができる子ども

5 仮説

児童が課題解決に向け、身に付けた知識・技能を活用しながら主体的に問いをとらえ、試行錯誤する経験を積むことで、問題解決に必要な思考力・判断力がつき、自律的な学力が育つであろう。

(教師がねらいをもって試行錯誤させ、解決に向けて自分で学びを進める力をつける。)

6. 具体仮説

- (1) 算数の「数と計算」領域において、系統性を明確にして、児童が既習事項等の学習経験を生かせるような単元・授業構成を工夫すれば、論理的に思考し、見通しをもって問題解決に向かう子が育つであろう。
- (2) 国語の説明文単元において、読解力が向上するよう読解スキルを身に付けさせれば、算数の文章題の題意理解の力が向上するだろう。

7. 方法等

(1) 研究内容と具体的な研究活動

- ①各学年、高学年「割合」の素地になる研究重点単元、系統的に指導するスキルを明らかにし、その身に付けさせ方を検討。(算数)

【1年】ブロック図(加減)	・	【2年】テープ図(加減)	・	【3年】線分図(加減乗除)、関係図(割合素地)
【4年】線分図(乗除) 関係図 数直線テープ図(割合)	・	【5年・6年】関係図、線分図、数直線		

②読解力向上のための授業スタイルの工夫(国語・説明文)

・椿原先生の著書「説明文読解の授業」を読み、スキル1～スキル7から選ぶ。

③図表・式を活用し言語化する活動を各段階で充実させる授業構成の工夫。

高学年の小数・分数の乗除を含む割合の学習に苦手意識をもつ児童が多い。全体的に文章問題の読解が難しい。



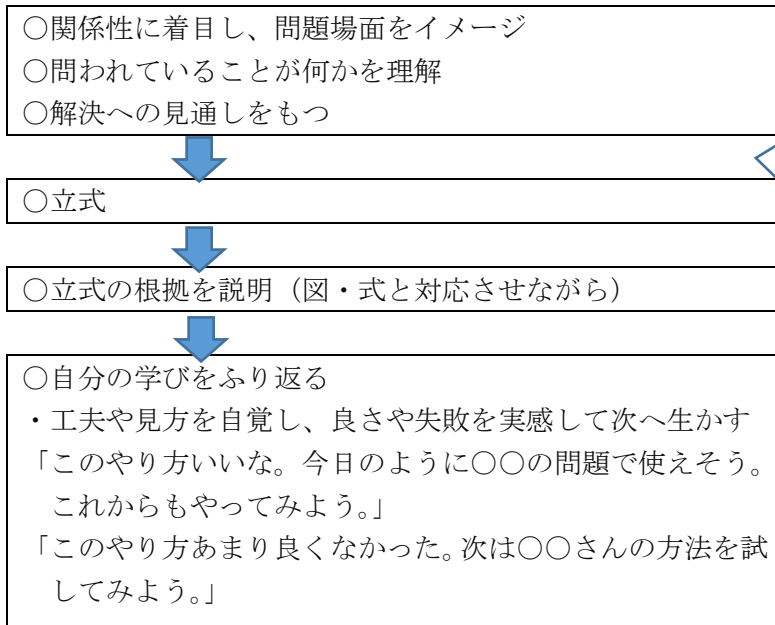
各学年に分散された「割合の素地」となる概念を整理し、系統的な指導を考え、演算決定に関わる図をスキルとして共通して指導する → 段階的に割合の考えの素地を育てる。

問題文を読む → 図表化することでイメージでき、問い・ゴールがつかめる。



「意味理解する力」を積み上げていく

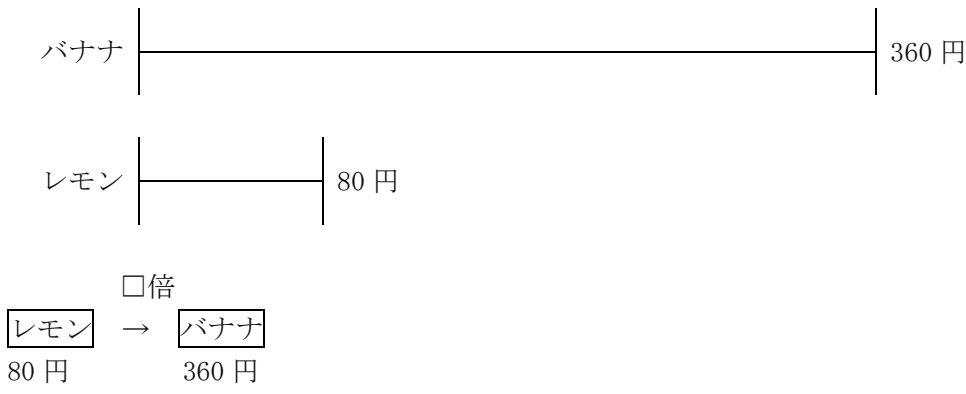
自律的学力がついている児童の姿（算数文章題）



これらができるようにするために必要なスキル

- ・既習事項を正しく引き出して使う。
(昨年度研究の重点)
- ・数量と数量の関係を視覚的に表現するための図（ブロック図 → テープ図 → 関係図・線分図・数直線）をかいて立式の助けとする。
- ・見方（何に着目するか） 考え方（どうやって解く）を働かせる。

児童の思考の流れ（例：4年・小数を用いた倍）

問題	バナナのねだんは 360 円で、レモンのねだんは 80 円です。バナナのねだんはレモンのねだんの何倍ですか。
既習事項を用いて見通しをもつ	・「○倍かは「いくつ分」と同じ意味だったから、かけ算かわり算かな。図をかいて考えてみよう」
学びスキルの活用	<p>・図をかく</p> 
立式	・「式は $360 \div 80$ だ。」
言語化	<p>・「どうして $360 \div 80$ かというと、360 は 80 のいくつ分かを考えるから。」</p> <p>・「『80 円の□倍は 360 円』という関係図を使うと、$360 \div 80$ をすればよいと分かる。」 →「答えは 4.5 だけど、何倍かを表すのに小数を用いてもいいのかな？」</p>
新しい学習内容の習得	・「 $360 \div 80 = 4 \cdots 40$ と考え、はしたの 40 を、80 円を 10 等分した 8 で割ると、40 は 8 の 5 つ分に当たる。このことから 360 は 80 を 1 としたときにちょうど 4.5 に当たる」といい、これを 4.5 倍の意味として指導する。このように、小数は量を表すだけでなく、倍を表す場合もある。

研究の視点（例）

- ・ ~ を用いて考えさせたことは、
 - ・ ~ したことは（指導者）、
- } 課題に対して児童が見通しをもって考え試行錯誤する方策として、有効であったか。
- ・ ~ を使って考え言語化している姿は、自律的学力がついた児童の姿と言えるか。

研究スケジュール（研究授業日程は今後調整）

月	内 容 ○職員会議等 ●校内研究授業	役割分担	
		担当	研究協議司会
4	○今年度の研究について研究部で検討（3日） ○今年度の研究共通理解Ⅰ（22日 職員会議） ○研究推進委員会（必要に応じて・推進委員）	研究部 京極 研究推進委員	
5	●算数研究授業（20日 5年生） ○学力向上訪問（27日PM 全学級授業視察）	＼ 渡部	研究部 ＼
6	○椿原先生研修（13日 5年生） ●算 or 国 研究授業（ 年生）	研究部 ＼	研究部 研究部
7	●算 or 国 研究授業（ 年生）	＼	研究部
8	○学力調査分析	渡部	＼
9	●算 or 国 研究授業（ 年生）	＼	（ ）
10	●算 or 国 研究授業（ 年生） ●算 or 国 研究授業（ 年生）	＼ ＼	（ ） （ ）
11	●算数研究授業（ 4年生） 学力向上訪問指導 ●算 or 国 研究授業（ 年生）	研究部 ＼	（ ） （ ）
12	●算 or 国 研究授業（ 年生）	＼	（ ）
1	○研究紀要作成		
2	○今年度のふり返りと次年度に向けた研究計画の検討	研究部	

・基本的に1人1～2授業を公開し、全職員で協議を行う。（研究協議の司会は輪番で行う。）

研究授業に向けての流れ

	訪問指導	訪問指導以外
指導案審議	1か月前（学年部・研究部）	2～3週間前（学年部）
指導案	2～3週間前審議（職員会議）	1週間前 説明（職員会議等）
研究協議司会	全教員で輪番	全教員で輪番